

地域の方と濃密なお付き合いをしています！



藍型染作家

松原 伸生さん（亀山地区）

松原伸生さんは、江戸時代から伝わる染色法“ながいたちゅうがた長板中形”の人間国宝、松原定吉さんを祖父に持ち、代々、その技術を継承する中で千葉県から無形文化財保持者として認定されました。生まれ故郷の江戸川区から 19 歳の時に君津市へ一家で移住してから 34 年という月日の中で紡いできた地域の方々との関わりについてお話を伺うことができました★

亀山地区への移住

19歳で江戸川区から君津市の亀山に移り住み34年になります。ここ亀山を選んだ理由は、この地域をレジャー等で訪れたことがあり、馴染みがあったことや仕事の染物に必要な日照時間や天日干しをする場所が確保でき、きれいな空気と水が、私の行う染色法に適した場所



染色作業の様子

だったことなどからです。

移住のきっかけ

私が生まれた頃の江戸川区は、田んぼ、畑があり、人家は離れ、秋になれば虫の音が聞こえるような“田舎”の雰囲気を持っていました。それが、あっと言う間に、ビルが建ち、高速道路が整備され、新住民が周りに住み始め、小さい頃はあった近所付き合いが無くなっていきました。

その時、東京で住み続けることはちょっと違うかと、感じ始め、私の発案で新しい住まいと作業場を探すことになりました。その際、知り合いの陶芸家に君津市を紹介していただき、過去の縁も感じたことから、移住へと発展しました。

当時、父、母、私と中学3年生、小学5年生の妹の5人家族で移住しました。妹達には違う環境に慣れるまで苦労をかけましたが、成人し、この地を離れた今では君津市で生活した数年間を振り返り、とても充実しており、移住して良かったと話してくれています。

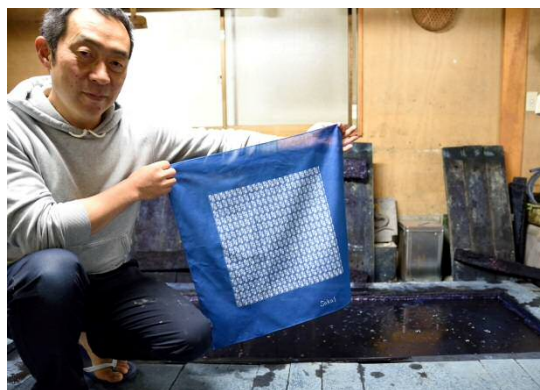
君津で暮らしてみても

君津に住み始めた当初、生活する上で多少の不便はありましたが、車が運転出来たこともあり、生活に慣れるにつれて不便を感じることはなくなりました。

そして、私が亀山に来て一番良かったことは「地域の人達とのお付き合いが濃密」であることです。もし、東京で生活を続けていたら、近所付き合いは稀薄になり、誰が住んでいるのかもわからなくなっていたと思います。それが、この地域では見守りの精神、良い意味で“おせっかい”な風土がありました。

私の子ども達は学校へ歩いて通っており、東京の友人には、「長い距離を歩いて通学させるなんて不安じゃないか」と言われたこともありますが、逆なんです。登下校の中で多くの近所の方の見守りの目が行き届き、安心して通学させることができました。

子どもを見かけたという近所の方から下校の様子を報告を受けることや、子どもが近所の農家さんから野菜をもらって帰ってくるというエピソードもありま



風呂敷サイズの藍型染作品

す。また、お風呂のボイラーが壊れたことがあったのですが、近所の方がお風呂に入らせてくれたことなど、私や子どもの良い思い出になっています。

私自身も地域に馴染むために、地元消防団に加入し、積極的に接点を持つよう取り組み、年齢の差を越えて多くの地域の方々と知り合うことが出来ました。当時の消防団の方とは今でもお付き合いがあり、一生の仲間が出来たと思っています。

移住を検討している人たちへ

最近子育ての難しさを感じるニュースを良く耳にします。「子育てノイローゼになってしまう」、「地域で孤立してしまう」、そんな状況になりやすい世の中だからこそ、のびのび子どもを育てることが出来る素養が田舎には残っていると思います。田舎って人を頼っていい環境があるんです。肩肘張らない、頑張り過ぎなくてもいいんです。私が住む亀山もそういった環境であったからこそ豊かな生活が出来ています。

東京で暮らし、子育てをしている友人を見ていると、周囲を気にして、調和を考えて、迷惑をかけないように頑張っているように感じます。田舎では迷惑をかけること、かけられることが当たり前なんです。そういった環境にするためにも移住を検討されている方自身も地域に溶け込むような意識を持って欲しいと思っています。

地域の方と移住されてきた方がうまくいかないという話を聞くこともありますが、移住者からも歩み寄ることで、地域でのつながりを構築し、都会とは違った生活を送ることができるのではないのでしょうか。



松原さんの作品や染物体験については「ふるさと納税」の返礼品になっています。
詳細はこちら <https://www.furusato-tax.jp/city/product/12225>